

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 7 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200593		
法人名	森信建設 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ富士見町		
所在地	広島市中区富士見町15-23 (電話) 082-244-3599		
自己評価作成日	平成28年7月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200593-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年8月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設の運営理念「ゆったり・のんびり・ほがらかに」を前提として、お一人おひとりのその日その日の体調や気分等を配慮しながら、毎日の日課として地域への散歩にでかけ、四季を肌・目・耳・身体全体で感じて頂き、メリハリのある生活を心がけています。また街なかの施設の特性を活かして、大型スーパー等にも出かけるようにしています。特に大切な食事提供は、開設当初より「地産地消」を合言葉に、県内の新鮮野菜やお米を使用しています。野菜は産直市場で購入、お米は東広島市黒瀬の生産農家から玄米で直送され、その都度、必要分を自家精米して提供しています。運営の母体が建設業ですので、施設内の細かい修理はもとより、在宅の管理等含む将来的な生活も視野に入れた終の棲家として、安心安全な住まい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

市内中心部にあり便利の良い当ホームは、利用者にとってその人らしく輝ける「すみ家」であって欲しいとの願いから、ケアが画一的にならないよう個別性を重視し、五感を大切にした外出支援にも力を注いでいる。定期的な家族会の開催に加えて、運営推進会議には家族の参加が多く、それらの中から寄せられた率直な意見などを職員間で話し合い検討し、利用者の思いに沿った個別ケアの質の向上に活かしている。また、地元の素材をふんだんに取り入れ栄養バランスのとれた食事提供や、毎月実施される消防訓練などは、利用者や家族の安心・安全へと繋がっている。ホーム内のみならず、様々なニーズへの多岐にわたるかわり方や展望を交えて、代表者、職員共々で話し合いながら、地域社会との絆を機能性豊かに紡いでいる。家族と手を携えながら、さらに一人ひとりの思いに寄り添うケアを目指し、職員全員で積極的に取り組んでいる事業所である。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆったり、のんびり、ほがらかに」ということを運営の理念としています。朝夕の職員の引継ぎの場に掲示し、毎朝出席者で唱和し、確認しています。日常の運営に際しても理念を常に意識して介護業務を行っています。	法人理念を念頭に、ホーム独自の行動指針を掲げ、また各フロアーで半期毎に目標を定めている。リーダー会議やフロアーミーティングで振り返りを行った結果、笑顔で挨拶することなど日々のケアに理念が活かせるようになり、実践に繋がっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩では、地域の人と挨拶や会話をすることで顔見知りになり、ホームの見学を希望される方はいつでも来ていただけるよう声かけをしております。地域や町内のお祭り・行事に積極的に参加させていただいています。時々 ご近所の方が利用者とお話に来られる事もあります。	恒例の、ホーム内で催される納涼祭には多くの家族他の参加協力があり、焼きそば、かき氷、綿菓子など、職員共々腕をふるう和やかなイベントとなっている。地域の夏祭り等の行事にも出向き、日頃の散歩では近所の方から声かけして頂き、ホームにも遊びに来て下さったり、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階「そとだん館」は地域・町内の行事等の使用希望があればいつでも使用出来るよう開放しています。利用者も参加可能であれば参加させていただき交流を行っています。施設内の行事等には地域の皆様にも参加して頂くようにしています。気軽に介護についての質問や相談を受けています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご利用者のご家族や町内役員の方、地域包括センターの職員等との意見交換や情報交換を行い、内外のご提案などをお聞きし、日々の運営に活かしています。また、消防訓練は毎月行い、認知症サポーターの講習会なども取り入れて、地域との連携を意識した運営を心がけています。	二か月毎開催の当会議には社長及び各方面からの出席があり、特に家族の参加が多く、活発な意見交換がなされている。家族にも閲覧可能な議事録には丁寧に報告事項や要望、意見内容が記載され、透明化が図られている。より広く参加頂けるよう、今後は消防署他にも呼びかける案など、さらに充実させていく姿勢がある。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員のほか、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し、欠席時の協議内容を報告しており連携は出来ていると思います。	一階の「そとだん館」では転倒予防教室を二か月に一回開催し、町内からは十数名の参加があり好評である。法人内行事への呼びかけや協力を含め、相談したり、助言を仰ぐなど密な連携が取られている。その他、地域包括支援センターから研修の通知を受け参加するなど、協力関係が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、隔月開催の全体会議、日々の引継ぎ時などで、具体例を挙げて身体拘束とみられかねない行為などについて指摘・指導や確認など行っています。3点ベット柵や拘束バンドは使用していません。また、ユニットの主玄関は日中施錠せず、季節によっては開放しています。	各ユニットの玄関ドアは開放され、ついたてを立てて風通し良くする工夫をしたり、日頃から見守りによるケアに努め、言葉も含めて抑制しないことへの意識を、全体会議や日々の申し送り時に深めている。クリップセンサー使用の利用者もいるが同意書を取り適切な対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議の場で報告し、全職員で共有できるようにしています。また。入浴介助の際には、ご入所の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般社団法人人生安心サポートセンターきらりの賛助会員となっており、成年後見人制度についての仕組みや役割などを管理者等は理解しています。ご家族からの相談時には、このような組織があることなどを説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて、書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧にご説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご利用者と接する中で、細かい要望なども積極的に聞き出して、出来ることから応えるように心がけています。またご家族のご来所時には、我々への要望・思いや苦情等は、管理者により積極的に機会を設けてお聞きするようにしています。また苦情処理機関の存在など、リーフレットも置いています。	定期的に家族会が開催され、家族からの提案や協力姿勢も積極的で、家族会積立金でカラオケの機械を購入していただくなど、家族側から何か必要なものはないかと、親身になって運営に参加している。面会も多く、職員とのコミュニケーションで日頃の様子を伝えながら、より良い関係性構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。また、隔月の職員全体会議や随時のリーダー会議、さらに必要時は個別での意見聴取の機会を作っています。	二か月毎に職員の全体会議で、時に応じてリーダー会議やフロアー会議で話し合い、支援の向上に努め、年一回個人面談も設けている。毎月テーマを決めて行う勉強会では更衣の仕方や食事方法についてなど職員による研修を重ねている。職員のレスポンスの良さは家族の安心にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、不在時を除き毎朝の引継ぎには出席し、就業環境の確認などを行っています。また、職員の処遇改善に向けては社会保険労務士の指導助言など受けて、常に前向きに実施する事を明示し、処遇改善に意をもちています。なお、年1回 個人面談を行うようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月テーマを決めて研修（勉強会）を行っています。また積極的に外部の研修を案内し、参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については、給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。施設に帰する研修は施設が負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームや訪問介護サービス事業会社などとの代表者や管理者の交流や研修派遣などを通じて、他の施設での参考事例を身につけ、報告書で社内回覧を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前の事前面接では、ご本人の生活の様子ADLを確認し、困りごとや要望などの聞き出しに時間をかけています。ご利用後の数日は、帰宅願望など不穏状態が見られることから、職員の重点的な見守りを行い、ご本人やご家族の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり、安心感を醸成しています。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接では、ご家族やケアマネを含めてこれまでの生活の様子、ご家族の困りごとや要望等の聴取に時間をかけています。ご利用後の数日は、ご本人は帰宅願望などで不穏状態が見られることから、ご家族との連絡を密にして、ご要望等を聴く機会を積極的にとり、安心感を醸成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接では、ご本人、ご家族やケアマネを含めてご希望などを聞きだします。ご利用後の数日は、帰宅願望など不穏状態なので職員を重点的に見守りさせて、引続き要望や相談事を聴く機会や時間を作るようにしています。フロアミーティングで、今後の支援について協議を行います。時には緊急ミーティングも行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご利用者の「新しい家族」という立場を認識し、新しい家で、新しい家族としての信頼関係を築き、何事も共に寄りそいながら行い、日々を過ごすよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いをしっかり受け止めて、ご利用後も負担を少しでも軽減できるよう心がけると共に、ご利用者に寄り添い、早く信頼関係を築けるよう心がけて対応しています。家族会を立ち上げて2年目になり、行事などにご家族からの積極的な参加・協力・支援等をしていただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人からのご要望や相談があれば、まず対応し、外部との手紙のやり取りや電話等も必要に応じて取り次いでいます。特に不穏な時やご家族の訪問が必要時には、施設に来ていただけるよう連絡を取り調整しています。	地域が馴染みの場所となっている利用者もいたり、家族をはじめ、ほぼ毎日のように面会があり、大切なひと時を過ごしている。以前の利用者の家族が、日本舞踊でボランティアとして来訪したり、昔からの馴染みの人たちとレクリエーションを楽しんだり、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなど、お話が合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。またユニットを越えてレクリエーションを行い、合同での相互交流を行っています。人間関係など考慮して、部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用後も、家族様の不安を取り除く為、居宅介護支援事業所とのかかわりは継続しています。近くに行った際はケアマネジャーを訪ね、その後の経過などお聞きしています。 また ご家族の中にはボランティアで来たいと申し入れがあり、お餅つきのお手伝い・舞踊などお願いをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者ご本人の現在・過去の思いや暮らし方等をお聴きし、我々で対応出来る事は積極的に取り組んでいます。家族会として要望事項等のアンケートを行い、その集計結果を日々の参考にしています。またご家族のご理解が必要な事項は連絡を取り、個別に対応しています。	話しをよく聴いたり、家族ともメールでやり取りしたり、利用者の思いや意向を積極的に汲み取っていかうという姿勢がある。家族会主体のアンケートは、何か要るものはないかとホーム側に問う内容で、協力的な関わりに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者本人の現在・過去の思いや暮らし方等をお聴きし、我々で対応出来る事は積極的に取り組んでいます。家族会として要望事項等のアンケートを行い、その集計結果を日々の参考にしています。また、ご家族のご理解が必要な事項は連絡を取り、個別に対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面接では、これまでの住まいをお訪ねし日常のADLなどを確認するとともに、デイサービスなど、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。ご利用後は見守りや声かけなどを通じて、細やかにご本人のご要望等をお聞きするとともに、ご家族にも訪問をお願いし、なじみの暮らし方と差が無いよう心がけています。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	継続的な職員の介護や見守り、散歩やレクリエーションなどでの状態をもとに、日勤リーダーを中心とした朝の引継ぎ時に、管理者、看護師などと協議して、それぞれの方の一日の過ごし方などを取りまとめて、日々実施しています。	担当スタッフが日頃知り得た情報を土台に職員で案を出し、ケアマネージャー他関係者と共に協議し、介護計画を立案している。家族へは担当者会議で説明し同意をいただいている。モニタリングは三か月毎に行い、状況やニーズに合わせて見直しをして、家族に同意、署名をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・個人記録等は日勤・夜勤者が記入し、その他の職員は出勤時に記録を確認してから業務に入るようにしています。特記事項等は、朝夕の申し送りで情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者等のご希望により、外部のデイサービスの利用を受け入れています。その他ご要望や状態に合わせて、ご家族やご本人様を交え、他のサービス利用を行うようにしています。今後は建設部門との連携で、これまでの住まいの活用などの生活支援の相談にも乗れるよう、サービスの多様化も視野に入れていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎日の散歩等で、地域の方と顔見知りになり、声をかけて頂いたり、グループホームにも遊びに来てくださることが多くなりました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用時に、ご本人・ご家族の意向等をお聴きし、そのご希望をもとに、受診・往診を協力して対応しています。ホームのかかりつけ医として、内科・歯科（1回/週）・皮膚科等の往診をお願いしています。看取りの時は、夜を徹して立ち会っていただいております。	内科はほぼ毎日、歯科は週一回、皮膚科は月一回の訪問診療があり、看護師も週三日の勤務シフトである。休日、夜間を問わず緊急時の体制も整っている。特に看取りの際には、内科医ほかスタッフの親身で適切な対応がなされている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週三日の勤務ですが、それ以外も常に連絡が取れる体制となっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医や受診医療機関等との連絡を担い、十分に相談しながら、日常の健康医療の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者のこれまでの入院病院とは、常に情報交換をしています。緊急時の搬送などについて受け入れの可否等を確認しています。また、途中入院時は、退院に向けて常に状態を把握し、ご利用者が退院、再度ご利用できるように務めています。また医療行為が必要な場合は、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用される時点で、重度化への指針や緊急時の体制などについて、入念にお話させていただいています。ご利用後、状態が悪くなっていく場合は、かかりつけ医師・看護師・管理者と共に、ご家族と今後の重篤時の対処などについて話し合いを行い、承諾書等も頂いています。	利用時に、ターミナルケアに関する指針などを丁寧に説明し、必要時にはその都度話し合っている。最近、看取りを経験し、その利用者に最期まで職員が声掛けしながら、触れたり体をきれいに保つよう心がけ、最期の刻が夜中だったが、職員全員が集まりお見送りし、思いを共有しながら、利用者や家族に寄り添う支援がなされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って連絡網で、即時に情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度、当日の行動など関係者で振り返り、改善などについて意見交換と研修をしています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に一回、定期的に消防避難訓練（日中・夜間を想定して）を行い、ご利用者の誘導、初期消火などについて実践力を身につけています。消防法の改正で、ビル全体の防災訓練などにも参加し、運営推進会議等では地域の方々とも災害時の対応について話し合っています。	法人全体として防災意識が高く、ホーム内では毎月職員と利用者で消防訓練を実施している。避難方法や消火器の使い方など、実際に動きを確認しながら行うようにしている。年二回、消防署員立ち会のもとでも実施し、このたび防災マニュアルも作成して、更なる啓発に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者への日常の言葉遣い等は、特に注意が必要で、全職員で接遇とマナーの勉強会を実施しています。必ずしも敬語の対応がふさわしくない場合など、「家族の一員」という視点で、最適な口調となるよう配慮しています。	人格を傷つけないような言葉掛けや、定期的な研修を通して、職員で共通の意識を持つように努めている。利用者の椅子を移動させる時も呼び掛けを行い、トイレのドアの開閉にも気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなどに素直に耳を傾け、また、自己決定できるような問いかけをしています。その中で出来る事は対応し、出来ない事については丁寧に説明しています。場合によっては、管理者や統括者を交えて話し合い、納得を得られるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご利用者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして、最適な過ごし方が出来るように心がけています。当日の入浴を希望されない方は、翌日に回したりしています。食欲が無い場合や、一斉での食事を希望されない時は、後で一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があれば使っていただいています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来ていただき、ご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望の際は、ご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事作りへの参加はありませんが、時々、ホットプレートを使用の際は一緒に作っていただいて、食器等の後片付けは無理の無い程度に一緒に手伝って頂いています。産直市の旬の食材を取り入れ、季節を感じていただきたいながら、主食のお米は県内産の玄米を自社精米して、常に美味しく召し上がっていただけるよう提供しています	平日は、女性スタッフの手作りでバランスの良い食事の提供と共に、食器も社長夫人自らの陶芸で製作した器を使用したり、温かみのある支援を心掛けている。毎月の誕生日会では、刺身、ちらし寿司、あんこゼリー等を、敬老会では家族と共に活けづくりを味わったり、外食の回転寿司など、皆で食事を楽しむ配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養管理士の献立表を参考に作っています。食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら、工夫と配慮をしています。また、ご利用者の様子（好み・硬さ・味等）や特記があれば、献立表に職員が記入し、今後の食事作りに役立てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを全員が行っています。その後の確認を職員が行い、週1回の歯科医院の往診時には、ご利用者ひと一人に、歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	原則パット内に排泄ではなく、トイレにて自立での排泄ができるよう支援しています。そのため、テープ式のオムツは使用していない。排泄表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにてトイレに誘導しています。また動作・表情などを察知して、トイレ誘導をし、気持ちよく排泄していただくよう取り組んでいます。	排泄表を活用し、タイミングを見計らって声掛けし、各々のパターンに合わせながらトイレ誘導をしている。夜間も二時間毎に誘導を行い、オムツの使用はしていない。夏場は特に水分補給や便秘対策を心掛け、お茶にも寒天粉末を加える等、排便を自然に促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬に頼ることなく、極力自然排泄が進むよう、寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その人に合った適度な運動・散歩を、毎日の日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回（夏場は3回）の入浴を行っています。その日の体調・或いは入浴の拒否がある場合には、無理をせずご本人の意思を尊重し、日を替えて入浴をしていただくよう対応しています。	曜日、時間に拘わらず、利用者の体調や状況に合わせ、入浴可能である。入浴剤を入れたり、必要であればシャワー浴での対応もある。浴室入り口は段差をなくし、スロープにしたり、傍にトイレも設置する等、導線良くリノベーションされ、全体を清潔に保つように工夫されている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には、寝具類の天日干しや風通しなどを行い、清潔な安眠環境づくりを心がけています。日中のレクや軽い運動・日向ぼっこをする等で、夜間ぐっすり眠り昼夜逆転をしないよう心がけています。処方による睡眠導入剤の服用なども、日々の状況によって対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者ごとの処方されている服薬情報をまとめ、かかりつけ医師・看護師・職員が確認できるよう工夫、配慮しています。決められた時間・量等の服薬支援をしています。また状態を看護師と確認しながら、かかりつけの医師と相談し、服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野など、日々のかかわりの中から引き出して、取り組みが可能なものは検討し導入しています。家族会によるアンケートも参考にしています。固定的な役割分担など決める事はせず、その日の気分・体調に合わせて無理のないよう、家事の手伝い・散歩やボランティアによる催し物に参加を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者全員のご希望に沿う事は難しいのですが、天気の良い日はほぼ毎日、近隣の散歩を実施しています。また、おやつレクリエーションとして近くのショッピングセンターに行って、好きな物を食べて頂いています。ご希望により外部のデイサービスへの送り出しや、ご家族との外出・外食なども行っています。	家族会で大型バスをレンタルして、宮島のサービスエリアへ出かけたり、外出には全員で行くことを心がけている。毎日の散歩や地域行事への参加、とうかさやフラワーフェスティバルにも行き、地域との関わりを持ちながら支援をしている。小旅行の計画もあり、利用者や家族の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用時に金銭管理の説明をご家族を交えて行っています。金銭管理規定に沿って、金庫での預かりと支出記録を行い、毎月の請求時等にはその報告を行っています。ご希望により、現金が必要な時には職員立会いで買い物や飲食などをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、ご利用時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話を所持されています。手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室室内や共用施設は掃除の仕方をマニュアルで定め、清潔で明るい空間となるように務めています。バルコニーに季節の草花を育てたり、リビングに飾ったりして季節感を出しています。またご利用者と一緒に作業を行う事で生活感覚を取り戻していただいています。	マンション仕様の部屋をグループホームとして、三階、四階部分をリノベーションしているのも、街なかの至便な住まい風の造りである。ベランダでは園芸担当のスタッフが花や野菜を育てたり、リビングには職員と共に作った朝顔などの折り紙作品が飾られ、家庭的な雰囲気のスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用前に、ご家族やご本人に、居室を見学していただき、それまでの日々の生活の状況と違和感の無いように、使い慣れた家具・椅子・テレビなど持込んでいただいたり、ご家族と一緒に考え工夫をしています。	各居室にはベッドとエアコンが備え付けられ、その他チェストやイスなど、好みの家具や馴染みの調度品は持ち込み可能である。趣味の絵やカレンダーを飾ったり、その人らしく落ち着いて過ごせるように配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは段差を残していますが、これは下肢筋力低下予防にも役立っています。現場の職員の声から、トイレ付近に手摺を増設しました。これからは現場の声に対応して行きます。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ富士見町

作成日 平成28年9月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席が少ない。	行政の方や地域の方の出席を増やす。	警察・消防署・保健所等に運営推進会議の出席をお願いに伺う。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。